

電動化ロードマップ：電気自動車への明確なビジョン

アウディは、持続可能なプレミアム e モビリティ プロバイダーへの変革を進めています。その過程で、e モビリティの時代への移行に対するビジョンを初期の段階から明確に示し、積極的に電動化戦略を追求してきました。そのアウディのスケジュールでは、電気自動車のラインナップを継続的に拡大して、2026 年以降に発売されるすべてのニューモデルを電気自動車にする予定です。また、電動化ロードマップは、2033 年までに内燃エンジンを搭載した車両の生産を、段階的に廃止することを宣言しています。電動化における重要な次のステップとして、アウディとポルシェが共同開発した PPE（プレミアム プラットフォーム エレクトリック）があげられます。

Vorsprung 2030 戦略は、アウディが e モビリティに移行するにあたり、あらゆる側面の明確なビジョンと方向性を提供しています。AUDI AG 取締役会 会長 マルクス ドゥスマンは、次のように述べています。「私たち従業員は皆、自分のエネルギーをどこに集中させる必要があるのかを理解しています。電気自動車は、気候変動を効率的かつ効果的に抑制することのできる唯一の方法です。そのため、現時点で明確なテクノロジーを示すことが非常に重要です」。電動化ロードマップは、2026 年以降発売される、すべてのニューモデルを電気自動車へ移行させるとともに、2033 年までに内燃エンジンを段階的に廃止することも宣言しています。

2026 年までに 20 を超える電動化モデルを発売

2021 年、アウディは電気自動車の製品ポートフォリオを 2 倍に増やし、初めて内燃エンジン搭載モデルよりも多くの電気自動車を市場に投入しました。具体的には、Audi e-tron GT quattro、Audi RS e-tron GT、そしてアウディのコンパクトセグメント初の電気自動車 Audi Q4 e-tron、Audi Q4 Sportback e-tron を電動ポートフォリオに追加しました。アウディは、2026 年までに 20 以上の電気自動車を導入する計画を立てています。

e モビリティに対するアウディの取り組みは、投資計画にも明確に表れています。アウディは、2021 年末に承認されたプランニング ラウンドに基づいて、2022 年から 2026 年までの電動化およびハイブリッド化に約 180 億ユーロを投資する予定です。これは、総投資額約 370 億ユーロのほぼ半分を、これらモデルの将来を見据えた分野に割り当てられることを示しています。

電気自動車の新しい工場を中国に建設

アウディは Audi FAW NEV Company Ltd. とともに、グループにとって特に戦略的に重要な[中国市場](#)において、電気自動車の未来への道を切り開いています。

例えば、アウディの電気自動車を生産する最先端の工場が、2024 年末までに大都市長春に建設されます。グループの最新の生産拠点として、この工場はデジタル化、効率、持続可能性の新たな基準を設定します。年間 15 万台以上の生産能力を持つこの工場は、中国市場向けアウディの、製品ポートフォリオの継続的な電動化において中心的な役割を果たします。Audi FAW NEV Company は、アウディが中国で株式の過半数を保有する最初の合併会社です。

中国の新工場では、アウディとポルシェが共同開発した、PPE（プレミアム プラットフォーム エレクトリック）をベースにした電気自動車を生産します。[クロスブランドプラットフォーム](#)の 1 つである PPE は、グループ全体で相乗効果を発揮し、アウディが[収益性の高い](#) e モビリティを拡大することを目的として開発されました。このプラットフォームは、中国だけでなく、グループ全体および世界中で、さまざまな生産台数の多種多様なモデルに採用され、e モビリティへの変革の大幅な加速に貢献します。PPE はバッテリー式電気自動車専用設計された、ラグジュアリーモデル向けのモジュラープラットフォーム システムです。広々としたインテリアと理想的なプロポーションを備えた PPE の中心的な要素は、前後アクスル間に配置されたバッテリーモジュールです。

プラットフォーム戦略はグループ内の相乗効果を活用

PPE は高い柔軟性を保ちながら、バッテリーを搭載するフロア下の技術的な構造を共通化することができます。これは、拡張性の高いハイテク アーキテクチャを使用して、フラットなフロアと高いフロアの両方のモデルを構築できることを意味しています。さらに、スタイリング、操縦ロジック、価格、ハンドリング等さまざまな要素を、それぞれのブランドやモデルに合わせて設計することが可能です。このプラットフォーム戦略により、フォルクスワーゲングループ内の相乗効果を最大限に高め、開発コストを削減することができます。このように、アウディはプレミアムモデルを開発するための基盤を整えています。

2023 年からインゴルシュタットで生産される Audi Q6 e-tron は、このグループ プラットフォームをベースにして開発された、アウディブランド初の新しい [電気自動車](#) です。近年発表した [Audi skysphere concept](#)、[Audi grandsphere concept](#)、[Audi urbansphere concept](#)、[Audi A6 e-tron concept](#) も、このプラットフォームシステム PPE をベースにしており、魅力的でエキサイティングな未来のモビリティを提供します。未来のデジタル世界では、車内が魅力的な体験のためのインタラクティブな空間になります。

革新的な新しいデザイン

電動化とデジタル化は、車両のデザインを一から見直す基盤を提供しました。アウディのコンセプトカーは、[自動運転](#)、革新的なインテリア、シームレスなデジタルエコシステムのビジョンを組み合わせています。これにより、アウディは未来の自動車像を包括的に考え、お客様のニーズにさらに重点を置きます。各コンセプトカーは、特定のユースケースを念頭に置いています。これは、各モデルのインテリアに明白に表れています。今後インテリアは、デザインとテクノロジーの基盤となり、乗員の生活と体験の場となります。

一方、持続可能性に関して、効率にも引き続き焦点を合わせています。特に、改善された空気抵抗は、[優れたエアロダイナミクス](#)を実現し、電気自動車の航続距離に大きなプラスの影響を及ぼします。このようにアウディは、e モビリティ を着実に実現するための理想的な条件を創出しています。